

南朝鮮に女性大統領の誕生にドイツの報道

投稿者：：

Posted on : 2012-12-26 17:49:24

日本ではマスコミがどういう訳か連日異常に報道していた。
恐らく新大統領の対日政策が気になったのであろうか。
日本の対韓政策、対竹島政策、意見や論調などが明白であり確固たるものがあれば、なにもそう敏感に対日政策にオドオドする事はない筈である。
日本のマスコミは自らの論調がないために、あるいは韓国の反応が怖くて表現出来ないのあろうか。

一方ドイツの報道は地にしっかりと付いている。

大統領選挙の大接戦で、僅差の勝利。
アジア4番目の経済大国は女性によって導かれる事になった。

保守派に属する60才の朴氏は嘗て約20年住んでいた大統領府 “BlueHouse “ に戻ってきた。
彼女は1961 – 1979年まで軍事独裁政権に君臨した朴正熙（パク・チョンヒ）司令官の娘なのである。
この事は大統領選挙に負の影響をもたらしたのではなく、逆に好影響を及ぼした。
それは軍事クーデターで政権を得た独裁者のイメージよりも経済救済者としてのイメージが強いからである。
貧困国家からハイテク産業国家に築き上げた功績は、労働者権利、民主主義を踏みにじってきたことは忘却の隅におかれている。
新大統領は、あの時の軍事クーデターは当時ベストの方法だったと父親の独裁政権を擁護している。
1974年に母親が北朝鮮のテロに殺害されてから、朴正熙（パク・チョンヒ）のファーストレディーとして母親に代わって、22才の若さで、父親と共に政治の舞台に登場してきた。
数年後、今度は父親が大統領として自分の秘密警察長官によって銃殺された。
その後娘は表の舞台から姿を消したが、この度再び登場したのは奇跡と云ってよい。
それは父親のカリスマ性が全くないからだ。
独身で子供のいない彼女は賢く、自分の主義に忠実だが、控えめなクールな人物と見られてる。
彼女のあだ名は「メモのプリンセス」。
答弁は全て予め用意されたメモからで、演説も用意された原稿の棒読みだからだ。

彼女は困難な時期に大統領になった事は自ら熟知しているようだ。
長期成長に慣れた自国では、今や経済困難に直面している。多くの失業者、多くの家族が多額の負債に苦しみ、教育費増大、ますます深刻化する貧困。
選挙ではよって経済問題が争点だったが、今度の北朝鮮によるロケット発射で、北朝鮮とどう対処するかも大きなテーマとなった。
新大統領は北朝鮮との会話に興味を示しているが、北朝鮮はこれまで対話のジェスチャーを示すだけで、逆に軍備拡張に利用しよう続けてきたのである。
彼女の母親が犠牲になった北朝鮮によるテロは、今の北朝鮮・金正恩（キム・ジョンイル）の叔父・金日成（キム・イルソン）だったのである。